

中間評価のとりまとめ

整備計画名称	成果目標	事業効果の発現状況 (中間年度)	整備事例
京都市域において浸水被害の最小化を目指す「雨に強いまちづくり」(防災・安全)	現況(平成22年度当初) ～ 中間目標(平成24年度末) ①京都市内を流れる都市基盤河川の流域において、概ね10年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水想定面積を6.7%減少 6.7%(中間目標) → 6.7%(中間実績値) ②京都市内を流れる都市基盤河川の流域において、概ね10年に1回程度発生する規模の降雨に対する浸水想定家屋数を1.1%減少 1.1%(中間目標) → 1.1%(中間実績値)	善峰川と新川の整備により、中間目標を達成することができ、流域の浸水被害の軽減が図られた。 引き続き、京都市内全域において、浸水被害が軽減されるよう、都市基盤河川改修事業を推進していく。	善峰川  新 川 